

財務諸表に対する注記

I. 重要な会計方針

当財団は、公益法人会計基準(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)を採用している。

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

時価のあるものは決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は正味財産増減として処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用している。

時価のないものは、移動平均法による原価法を採用している。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっている。なお、主な耐用年数は次の通り。

什器備品 3～8年

(2) 無形固定資産

定額法によっている。なお、自社利用のソフトウェアについては、財団内における利用可能期間(5年)に基づいている。

3. 引当金の計上基準

(1) 退職給付引当金

従業員の退職金の支出に備えるため、当財団の退職金給付規程に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

(2) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、常勤役員退職慰労金支給規程に基づく期末要支給額を計上している。

4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に——換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資。

5. 消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

II. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

(単位 円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	27,659,855	27,906,855	30,853,855	24,712,855
投資有価証券	17,697,763,300	4,234,567,900	3,260,793,000	18,671,538,200
小 計	17,725,423,155	4,262,474,755	3,291,646,855	18,696,251,055
特定資産				
助成事業予備基金				
通知預金	17,213,481	20,538,181	17,460,481	20,291,181
投資有価証券	2,143,735,570	1,393,893,300	1,006,671,000	2,530,957,870
小 計	2,160,949,051	1,414,431,481	1,024,131,481	2,551,249,051
退職給付引当資産	900,000	1,870,000	900,000	1,870,000
役員退職慰労引当資産	1,932,000	4,232,000	1,932,000	4,232,000
小 計	2,163,781,051	1,420,533,481	1,026,963,481	2,557,351,051
合 計	19,889,204,206	5,683,008,236	4,318,610,336	21,253,602,106

III. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

(単位 円)

科 目	当期末残高	(うち、指定正味財産 からの充当額)	(うち、一般正味財産 からの充当額)	(うち、負債に対応す る額)
基本財産				
定期預金	24,712,855	0	24,712,855	0
投資有価証券	18,671,538,200	0	18,671,538,200	0
小 計	18,696,251,055	0	18,696,251,055	0
特定資産				
助成事業予備基金	2,551,249,051	0	2,551,249,051	0
退職給付引当資産	1,870,000	0	0	1,870,000
役員退職慰労引当資産	4,232,000	0	0	4,232,000
小 計	2,557,351,051	0	2,551,249,051	6,102,000
合 計	21,253,602,106	0	21,247,500,106	6,102,000

IV. 担保に供している資産は無い。

V. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位 円)

科 目	取 得 価 額	減 価 償 却 累 計 額	当 期 末 残 高
什器備品	4,026,405	3,901,630	124,775
ソフトウェア	7,612,500	2,961,875	4,650,625
合 計	11,638,905	6,863,505	4,775,400

VI. 保証債務等の偶発債務は無い。

VII. 関連当事者との取引は無い。

Ⅷ. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引

(1) 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている金額との関係は以下のとおりである。

(単位 円)

	前期末	当期末
現金預金勘定	215,307,526	278,005,494
現金及び現金同等物	215,307,526	278,005,494

(2) 重要な非資金取引は無い。

Ⅸ. 重要な後発事象は無い。